



(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月分)

【平成 28 年 3 月】

2 月 14 日執行の市長選挙におきまして、皆さまの力強いご支援や温かい励ましにより、再び市政の舵取りを務めさせていただくことになりました。ありがとうございました。

本格的な人口減少社会と少子高齢化を迎え、地方（地域）創生・地域の活性化が大きな課題となります。

しかし、本市には、国宝石清水八幡宮や三川合流域など自然と歴史文化があります。また、高速道路網も充実し、その地の利を活かし、未来を見据え、将来世代に負担を強いることがない取り組みを進めていかなければなりません。

山積する課題の解決に向け、市民協働を基本に国・京都府との連携をさらに強化しながら、まちづくりを進めてまいります。

「一歩前に」を合言葉に職員とともに歩みを進めてまいります。

皆さまのさらなるご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

【平成 28 年 2 月】

2 月生まれの私は、毎年この月、この一年何をしようか再度考えることにしています。年を重ねても、これは変わりません。

ここ数年、健康のためにウォーキングを日課にしていますが、車からの目線が歩行者からの視点でも見るようになりました。

現在、市では「みんなが元気に暮らせるまち」を目指し、ウォーキングを推奨しています。健康づくりのためには、筋力トレーニングも必要ですが、まずは歩くことからとの思いです。

歩いていると、日ごろ気づかない生き物に出会うことがあります。

市では、市内で生息する野鳥・昆虫・魚介類・植物等を調査した「八幡のまちの小さな仲間たち」という冊子を平成 27 年度内に改訂し、発行します。是非、ご覧になってください。

これからも普段から新しい何かを発見できるよう心掛け、施策に活かしていければと思っています。

【平成 27 年 12 月】

12 月 5 日は「世界土壌デー」です。私達の命も健全な土壌の上に成り立っています。土壌は私達のいわば“土台”です。

先日、国土交通省主催の「背割堤秋の満喫プラン」で、初めて熱気球に乗りました。三川合流域、男山、街並みなど普段見ることができない景色に「八幡はホンマにええとこや」と改めて実感しました。

この八幡の良さを将来にわたって伝えていかなければなりません。国、京都府と連携を密にし、市民の皆さまと協働しながら、弛（たゆ）まない努力が必要です。地に足をつけて一歩一歩着実に歩みを進めてまいります。

また、11 月 23 日、八幡市自治連合会が発足 20 周年を祝う記念式典を開催されました。「自助・共助・公助」を基本に、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という強い意志のもと、地域の要としてご尽力いただいています。

八幡の自然、そして人材育成、人のつながり、どれも八幡市の“土台”として市政を進めてまいります。

【平成 27 年 11 月】

10 月 16 日、うれしい知らせが舞い込んできました。

文化審議会が、石清水八幡宮本社 10 棟を国宝に指定することを文部科学大臣に答申したというものです。

寛永 11（1634）年に造替された社殿群は、八幡造形式の本殿と前面に連なる幣殿および舞殿等を瑞籬や廻廊で囲み緊密に一体化しており、現存する国内の同形式の中では最古で最大規模だと言われています。また、10 棟もの建物が一度に指定への運びとなることは、国内でも珍しいと聞きしました。

八幡のまちは石清水八幡宮の門前町として栄えてきました。まちな様相は随分と変化しましたが、その原点を忘れてはいけないと思います。

正式な国宝指定は官報告示の日ですが、八幡市では初めてのことです。

八幡市の“たから”として、そして“誇り”として大切にしなければとの思いを新たにしていくところです。

※広報やわた平成 27 年 11 月号 9 面に詳細を掲載しています。（リンク先：広報やわた平成 27 年 11 月号）

【平成 27 年 10 月】

最近「健康寿命」という言葉をよく耳にされると思います。

「健康寿命」とは、健康上問題がない状態で日常生活を送れる期間のことで、「平均寿命」とは区別されています。

厚生労働省は、平成 25 年の「平均寿命」と「健康寿命」との差は、男性で約 9 年、女性で約 13 年あると公表しています。また、アメリカの研究チームの調査結果では、世界 188 カ国のうち、日本が「健康寿命」第 1 位と報告しています。

健康づくりには、運動が欠かせません。10 月 25 日（日）には“健康フェスタ 2015”を開催します。運動を始めるきっかけづくりとして、皆さん是非ご参加ください。

一緒に運動を継続して楽しみ、「健康寿命」を延ばしましょう。

【平成 27 年 9 月】

二十四節気の処暑が過ぎ、激暑とも言える今夏の暑さも、ようやく終わりを告げようとしています。

体温を上回る気温の日が続き、体力を消耗されたことと思われます。熱中症での救急搬送が、昨年度の 2 倍になったという報告がありました。

そのような中、各自治会ではコミュニケーションを深め、安全・安心の地域づくりをさらに進めていくためのイベント、夏祭りが開催されました。

役員の方をはじめ、住民の皆様のご努力下、年々参加者も増え、子どもたちの賑やかな声も聞こえてきます。

地域で交流を深めていただくことが、少子高齢化への一番の対策ではないかと感じています。

9 月も各地域でいろいろな行事が開催されます。さらに交流を深めていただきますようお願いいたします。

朝夕涼しくなり、夏の疲れが出てくる頃です。体調には十分ご注意ください。

【平成 27 年 8 月】

今年は、6 月末までに 9 つもの台風が発生しました。観測史上 44 年ぶりのこととされています。「集中豪雨」の他、「雹（ひょう）」「竜巻」など、これまで日本で余り見られなかった現象も頻繁に起こっているようです。

本市も毎年、台風や大雨の影響を受けていますが、幸いにも人的被害は発生していません。

防災への取り組みは、さらに進めていかなければなりません。まずは、市から直接配信される情報だけでなく、テレビ、ラジオなどからの情報も確認するようにしてください。

災害対策に万全はありません。しかし、日ごろの備えで被害を回避できることもあります。また何より、いざという時に助け合いのできる地域コミュニティの輪が、最も安心につながると考えています。

台風シーズンを迎えます。"そなえ"をよろしく申し上げます。

【平成 27 年 7 月】

人口減少が叫ばれています。

かつて本市は全国でも有数の人口急増団体となり、市制が施行されました。しかし、平成 24 年度に出生数が死亡数を下回って以来、人口が減少してきています。人口の減少はまちを疲弊させ、財源の確保も困難となります。

国は対策として「まち・ひと・しごと創生法」を施行しました。法に基づき、人口減少を克服し、まちが活性化していくような今後 5 カ年の「地方創生戦略」を策定してまいります。

8 月発行のプレミアム商品券も地域経済を活性するための方策の一つです。3 割のプレミアムは近隣で最も高い設定です。是非、ご利用ください。

戦略を策定するにあたり、効果的な各種施策を打ち出すための皆さまのアイデアをお待ちしています。ご協力よろしく申し上げます。

【平成 27 年 6 月】

「先人の努力 受け継いだ証」

京都府南部地域が「日本茶 800 年の歴史散歩」として日本遺産に認定されました。

長い年月、最高級のお茶を作り続けてきた生産・製茶の歴史と文化、美しい茶畑などの景観が認められたのでしょうか。

先人の弛まぬ努力とそれを受け継いだ人の日々の精進の証だと思っています。

京都府も「お茶の京都」と題し、南部地域の活性化に力を注いでいます。

「お茶」をきっかけに、観光振興・人の交流を図ることができればと思っています。

私も一服のお茶で心を落ち着かせてもらっています。

市民の皆様も、忙しい日常のなかに、「ほっと一息」抹茶や急須でいれたお茶を味わう時間を作ってみられてはいかがでしょうか。

【平成 27 年 5 月】

5 月 5 日のこどもの日に、欽明台地区に京都府内産木材を使用した子ども・子育て支援センターすくすくの杜がオープンします。

施設の愛称は、市の木「くすのき」と子どもたちがすくすく育ってほしいという願いを込めて、公募により名づけていただきました。

市長 1 期目の総仕上げの年となる平成 27 年度は、すべての子どもがいきいきと活動でき、子育てに喜びを感じることができる「子育ての八幡市」づくりに重点をおき、取り組みを進めます。さまざまな課題はありますが、将来を担う子どもたちが安心して育ち、次代を生きる人たちに負担を押し付けない「まち」を作っていくことが、現在（いま）を生きる我々の責務であると思っています。

一度、お子さまと一緒に、「すくすくの杜」で楽しいひと時を過ごしてみてください。

【平成 27 年 4 月】

4 月は、新しい出会い、桜そして本市では筍、また行政にとっては年度初めの月となります。

トルストイの「アンナ・カレーニナ」の冒頭に「幸せな家庭はどれも似たものだが、……」というフレーズがあります。

志水宏吉大阪大学大学院教授の調査では、学力を巡る状況も同様の様相を呈し、好成績をもたらしている上位県の要因（家庭・地域・学校）は、押しなべて共通しているようです。

平成 27 年度は、私の任期の最終年度となりますことから、これまでの取り組みとともに「子育ての八幡市」づくりに重点を置いた予算といたしました。

三つ子の魂百までといわれますように、幼児期における家庭の役割は大きな部分を占めます。

幼いお子さんには、たくさんの愛情をかけ、心身共に健やかな成長を促してあげてください。